

行動科学的アプローチ習得のための研修プログラムが健康相談活動における養護教諭の自己効力感に及ぼす影響

Effect of training program aimed at acquiring behavioral scientific approach on self-efficacy for health counseling activities in Yogo Teacher

石垣 久美子 (Kumiko Ishigaki) 指導：嶋田 洋徳

問題と目的

子どもたちの心身の健康問題の深刻化に伴い、保健体育審議会（1997）は養護教諭の新たな役割として、保健室来室者に対して常に心因的な要因を念頭において対応を行う、「健康相談活動」を位置づけた。しかしながら三木（2009）によれば、来室者の心身のアセスメントに対する自信がないと答えた養護教諭が8割にもものぼるとされている。このことから、心理的側面の見立ての方法論を教授することは、健康相談活動の円滑化および根拠に基づいた活動の普及において大変有用であると考えられる。本研究では、児童生徒の心理的側面のアセスメントに関する実証的研究として、基礎的な行動科学的アプローチの知識教授を行い、養護教諭の健康相談活動に対する態度を考慮して自己効力感上昇効果を検討する。

研究Ⅰ 養護教諭の健康相談活動に対する態度チェックリストの作成

方法

現職養護教諭40名に対し、保健室頻回来室者の対応に関する自由記述を収集し、KJ法による分類を行った。

結果

養護教諭の健康相談活動に対する態度を示す項目として、「受容的態度」、「教育的支援」、「連携・校内体制の活用」、「専門家へのコーディネート」、「来室児童生徒の情報収集」、「訴えに対する見立てと判断」の6カテゴリ計24項目が得られた。

研究Ⅱ 行動科学的アプローチの知識教授が健康相談活動における養護教諭の自己効力感に及ぼす効果

方法

手続き 現職養護教諭32名を対象に、行動科学的アプローチ（機能分析や三項随伴性）に関する内容を中核とした計3時間の研修会を実施した。

測度 ①養護教諭の健康相談活動に対する態度チェックリスト、②行動科学的アプローチに関する理解度、③健康相談活動に対する自己効力感、④機能分析的視点を生かした実践事例報告、⑤研修プログラムに対する評価

結果と考察

健康相談活動における養護教諭の状態像の類型化 クラスター分析の結果、「受容的態度重視群」、「課題解決的対応重視群」、「平均的受容群」の3つの群に分類された。

養護教諭の健康相談活動における類型による研修会効果の差異の検討 平均的受容群において、「来室者の心理的側面の見立て」に対する自己効力感が、研修会直後に有意に上昇した (Figure)。また平均的受容群は、課題解決的対応重視群と比較して、有意に高い「実行動機づけ」得点を示した。follow-up期においては、受容的態度重視群に実行化した者が多い傾向があり、課題解決的対応重視群と比較して、「主観的対応レポーター増大感」が有意に高いことが示された。

総合考察

本研究の結果から、養護教諭の健康相談活動に対する態度によって、行動科学的アプローチ習得による自己効力感の変化や実践化には差異があることが示された。受容的態度重視群は、対応レポーター増大感が生じていることから、行動科学的アプローチを職務上の一つの方法論として積極的に取り入れたものと考えられる。研修会直後の自己効力感は上昇していなかったことから、自らの重視する受容的な対応と行動科学的アプローチの考え方の違いに抵抗感を持った可能性もある。受容的側面を肯定的にとらえながらも機能分析的視点の特長に目が向けられるような提案の工夫が必要であると考えられる。一方、平均的受容群は研修会直後の自己効力感は上昇し実行動機づけが高かったにもかかわらず、実際の行動化の程度は顕著ではなかった。動機づけを維持するための支援や、行動科学的アプローチを学校現場で実践しやすくなるような方法論の構築が必要であると考えられる。

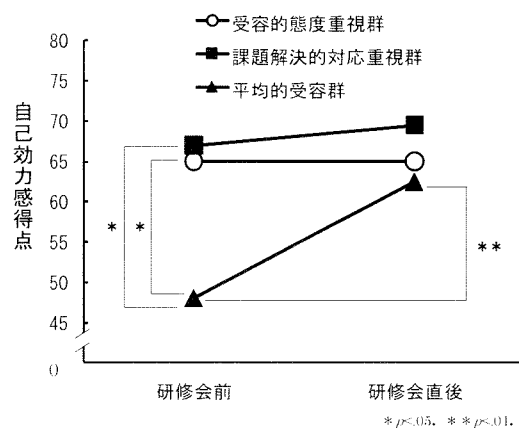


Figure 「来室者の心理的側面の見立て」に対する自己効力感の変化